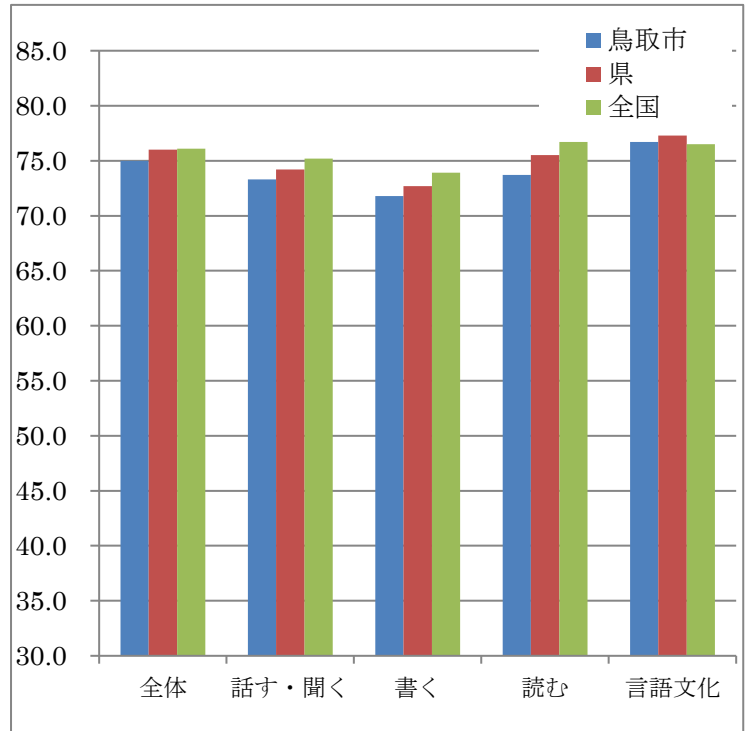


## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要【中学校】

### 教科に関する調査から —国語A〔知識〕・B〔活用〕・算数A〔知識〕・B〔活用〕・理科—

※ 表及びグラフの数値は、すべて平均正答率（％）を表しています。  
(鳥取市・鳥取県の全体数値は小数点以下が表示されていません。)

国語 A	鳥取市	県	全国
全体	75	76	76.1
話すこと・聞くこと	73.3	74.2	75.2
書くこと	71.8	72.7	73.9
読むこと	73.7	75.5	76.7
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	76.7	77.3	76.5



#### 国語A <主として「知識」に関する問題>

… 32問

○全体として、全国平均を下回っている。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】は全国平均並であるが、【読むこと】は－3.0％と全国平均との差が大きい。

#### 全国平均を上回る主なもの

「8-1. 文脈に即して漢字を正しく書く（束ねる）」問題は、+4.3％である。

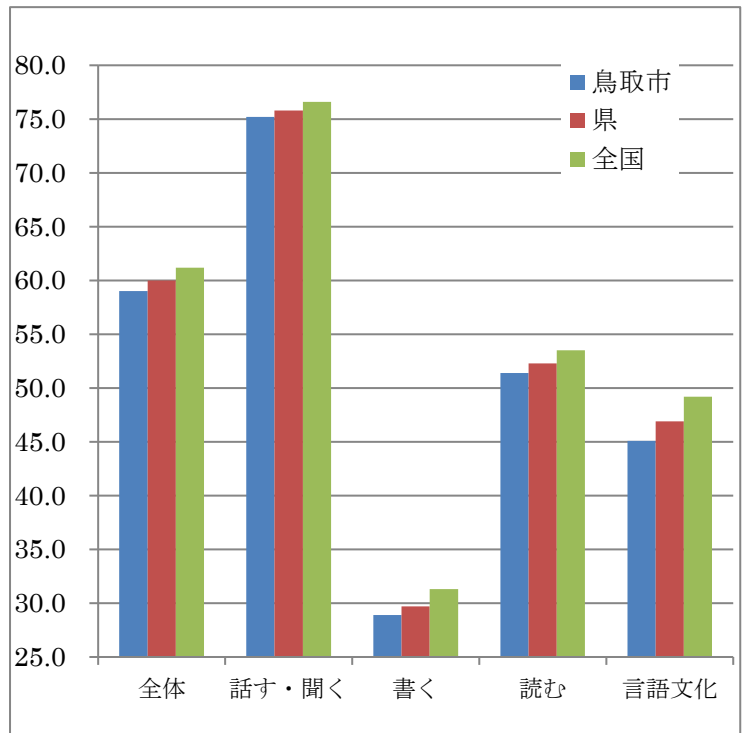
「8三オ. 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う（折り合いをつける）」問題は、+4.5％である。

#### 全国平均を下回る主なもの

「5二. 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題は、－3.4％である。

「8四2. 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」問題は、－5.6％である。

国語 B	鳥取市	県	全国
全体	59	60	61.2
話すこと・聞くこと	75.2	75.8	76.6
書くこと	28.9	29.7	31.3
読むこと	51.4	52.3	53.5
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	45.1	46.9	49.2

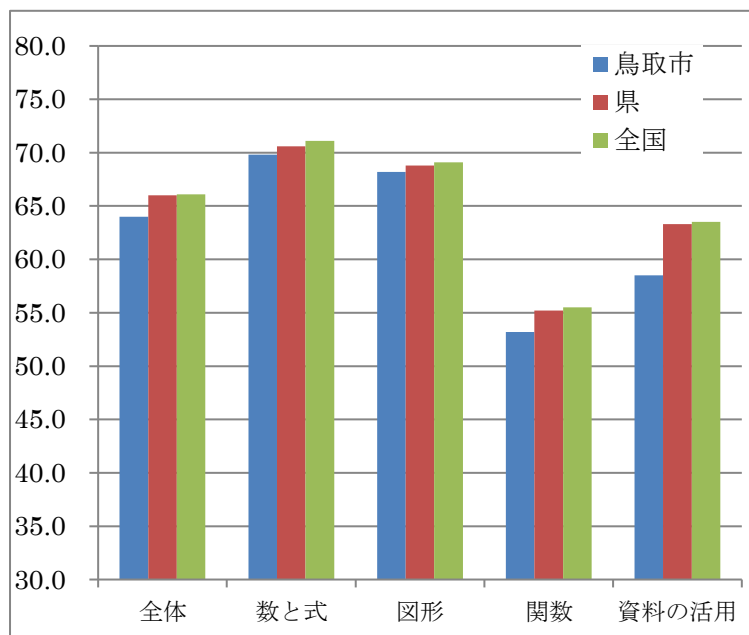


国語B <主として「活用」に関する問題>  
 … 9問  
 ○全体として、また全ての領域において、全国平均を下回っている。特に【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】は-4.1%と全国平均との差が大きい。

**全国平均を上回る主なもの**  
 特になし

**全国平均を下回る主なもの**  
 「2一. 質問の意図を捉える」問題は、-2.4%である。  
 「3三. 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題は、-4.1%である。

数学 A	鳥取市	県	全国
全体	64	66	66.1
数と式	69.8	70.6	71.1
図形	68.2	68.8	69.1
関数	53.2	55.2	55.5
資料の活用	58.5	63.3	63.5



数学A<主として「知識」に関する問題>

… 36問

○全体として、全国平均を下回っている。【図形】は全国平均並であるが、【資料の活用】は-5.0%と全国平均との差が大きい。

#### 全国平均を上回る主なもの

「1 (2) . 絶対値が6である数を書く」問題は、+5.5%である。

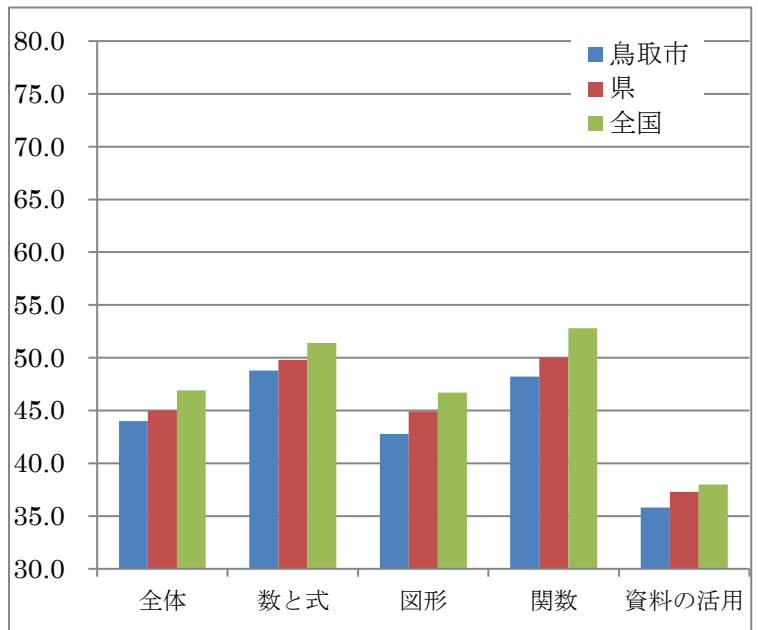
「5 (2) . 半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く」問題は、+2.8%である。

#### 全国平均を下回る主なもの

「2 (3) .  $a=3$ ,  $b=-4$ のときの式  $a-2b$  の値を求める」問題は、-5.5%である。

「15 (1) . 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ」問題は、-11.0%である。

数学 B	鳥取市	県	全国
全体	44	45	46.9
数と式	48.8	49.8	51.4
図形	42.8	44.9	46.7
関数	48.2	50.0	52.8
資料の活用	35.8	37.3	38.0



数学B <主として「活用」に関する問題>

… 14問

○全体として、またすべての領域において、全国平均を下回っている。特に【図形】は -3.9%、【関数】は -4.6%と全国平均との差が大きい。

全国平均を上回る主なもの

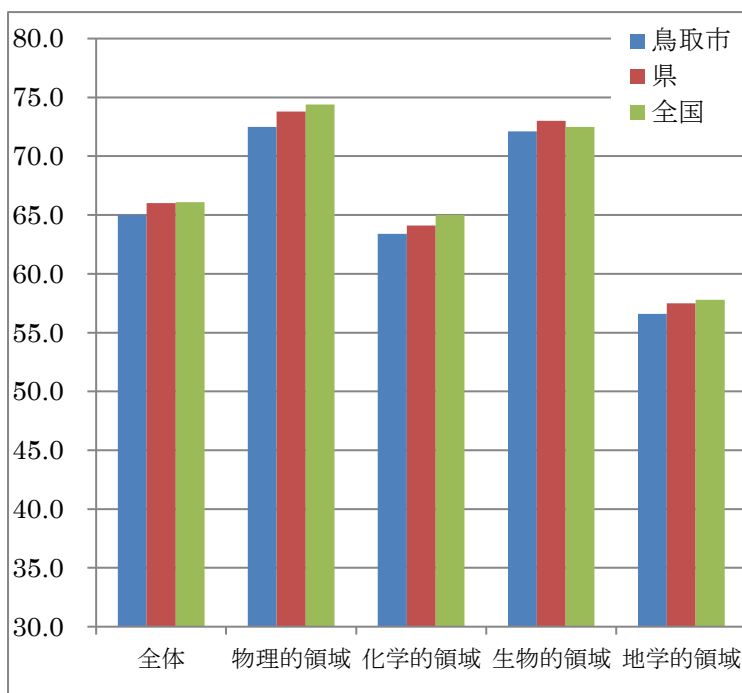
特になし

全国平均を下回る主なもの

「2 (2) . はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する」問題は、-5.9%である。

「3 (2) . グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める」問題は、-6.2%である。

理科	鳥取市	県	全国
全体	65	66	66.1
物理的領域	72.5	73.8	74.4
化学的領域	63.4	64.1	65.0
生物的領域	72.1	73.0	72.5
地学的領域	56.6	57.5	57.8



#### 理科

＜主として「知識」に関する問題＞… 11問

＜主として「活用」に関する問題＞… 16問

○全体として、全国平均を下回っている。【生物的領域】は全国平均並であるが、その他の領域は全国平均を下回っている。【物理的領域】が－1.9%と最も差が大きい。

#### 全国平均を上回る主なもの

「2(2)．濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する」問題は、+3.7%である。

「5(1)．神経系の働きについての知識を問う」問題は、+2.4%である。

#### 全国平均を下回る主なもの

「3(1)．風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する」問題は、－3.8%である。

「6(2)．実験の結果を示した表から電流の値を読み取る」問題は、－3.9%である。

## 生徒質問紙調査から — 学習・学習習慣や生活習慣などに関する質問 —

※ %は肯定的回答, ( ) 内の数字は全国平均との差, ◇は鳥取市が重点と考えている項目を表しています。

### 学習に関する質問紙

#### <国語関係>

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、10分以上読書をする（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」 56.7% (+3.2…過去3年間で増加傾向, 3年間共全国平均を上回る)

#### <数学関係>

◇「数学の勉強が好き」 49.3% (-4.6…過去3年間で減少傾向, 3年間共全国平均を下回る)

「数学の勉強は大切だ」 87.3% (+3.7…過去3年間で増加傾向, 3年間共全国平均を上回る)

◇「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」 72.6% (+2.3…過去3年間で増加傾向, 昨年度より全国平均を上回る)

「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」 67.0% (-2.2…過去3年間の一定傾向はなく年度により増減, 3年間共全国平均を下回る)

「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」 85.1% (+4.5…過去3年間で増加傾向, 昨年度より全国平均を上回る)

#### <理科関係>

◇「理科の勉強が好き」 65.7% (+2.8…平成27年度調査結果より大きく上回る)

「理科の勉強は大切だ」 77.4% (+6.8…平成27年度調査結果より上回る)

「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」 44.5% (-0.9…平成27年度調査結果と同じ)

#### <その他>

◇「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」 55.3% (+1.5…過去3年間で減少傾向だが, 今年度全国平均を上回る)

◇「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」 78.7% (+2.4…過去3年間で最も高い肯定率で増加傾向, 3年間共全国平均を上回る)

## 学習習慣・生活習慣などに関する質問紙

### <自尊感情>

◇「自分には、よいところがある」 81.0% (+2.2…過去3年間で最も高い肯定率, 昨年度より全国平均を上回る)

### <夢・目標>

◇「将来の夢や目標を持っている」 72.4% (±0.0…過去3年間で最も高い肯定率, 今年度は全国平均並)

### <規範意識>

◇「学校の規則を守っている」 95.7% (+0.6…過去3年間同水準で推移, 3年間共全国平均並)

### <生活習慣>

「朝食を毎日食べている」 95.3% (+3.4…過去3年間同水準で推移, 3年間共全国平均を上回る)

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」 80.6% (+6.4…過去3年間同水準で推移, 3年間共全国平均を上回る)

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」 91.8% (+1.5…過去3年間で減少傾向, 3年間共全国平均を上回る)

### <学習習慣>

◇「家で、学校の宿題をしている」 92.8% (+1.2…過去3年間同水準で推移, 3年間共全国平均を上回る)

◇「家で、学校の授業の予習・復習をしている」 50.2% (-5.0…今年度より予習・復習が一つの質問紙となり経年変化はわからない)

### <地域>

「今住んでいる地域の行事に参加している」 51.8% (+6.2…過去3年間の一定傾向はなく年度により増減, 3年間共全国平均を大きく上回る)

「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」 64.0% (+4.7…過去3年間の一定傾向はなく年度により増減, 3年間共全国平均を大きく上回る)